

ジグソー学習法を用いた 看護技術の教育方法について

上野範子・緒方 巧
聖泉大学・梅花女子大学

1. はじめに

本日は、梅花女子大学の緒方巧先生と私(上野)が前任校で行っていた、ジグソー学習法を用いた看護技術の教育方法について発表します。発表は、緒方先生と私が二人で行う予定でしたが、緒方先生が仕事で出席できなくなりましたので、私が発表いたします。

看護教育においては、講義、演習、臨地実習の三つが大きな柱となります。特に、看護技術を習得するために行う看護技術の演習は、知識と技術とを統合する上でとても重要なものです。私たちは、この看護技術の演習にジグソー学習法を取り入れてきました。

一般的に行われている看護技術の演習は、グループ学習で行われ、次のようなプロセスで進みます。事前学習として、学生は演習の技術項目の手順や留意点などをレポートにまとめておきます。演習では、まず、教師による看護技術のデモンストレーションを学生が見学します。(1クラスの学生が80人で教師4人の場合、教師一人のデモンストレーションを20人の学生が見学することになります。)

次に、学生は各グループに戻って看護師役、患者役、評価役をロールプレイして看護技術を経験します。教師は自分の担当するグループを巡回して指導します。

ところがこの授業スタイルには、改善すべきであると思われる点がいくつかありました。例えば、一人の教師のデモンストレーションを大勢で一緒に見学するため、学生は、教師が何をしているかがよく見えない、説明のスピードについていけない、わからないところがあっても質問しづらい、といったことが挙げられます。教師にとっても、担当したすべての学生に指導が行き届くとは言えません。また学生は、事前学習と1回のデモンストレーション見学だけでは理解が不十分であり、グループでの演習が効果的にスムーズに進みにくいのです。その結果、学生によっては練習が不足し、技術の習得度合いに差が出てしまうことがあり、学生の主体性を引きだすににくいとも感じていました。

どの学生も自主的に学び、しっかり技術を身につけてほしい、クラスの仲間と学習の質を高め合ってほしい、演習室の学習資源を活用してほしい。そんな教師の願いを実現させる学習法はないかと模索した末に見えてきたのが、ジグソー学習法でした。

2. メンバー同士が自分の担当した課題を教え合う

ジグソー学習法とは、1978年にアメリカのエリオット・アロンソンらによって考案された協同教育方法の一つです。クラスを4~6人のグループに分け、全グループに共通する一つの学習課題を、1グループ4人なら四つ、5人なら五つと、グループ内の人数と同じ数になるように分割して提示します。学生たちは、各グループから一人ずつ、同じ課題に取り組む学生同士が集まって学

習します。学び終えた学生は自分のグループに戻り、教師役になって学習内容をほかのメンバーに教えます。つまり、学習課題の全体を学ぶためには、グループのメンバー同士が自分の担当した課題を教え合い学び合う必要があるわけです。ピースが合わせられてはじめて一つの絵が完成するジグソーパズルになぞらえ、ジグソー学習法と名づけられました。

緒方先生は、一人ひとりがしっかり看護技術を身につけられるよう、従来のジグソー学習法に次の二つを加えました。一つは、自主的な技術練習を促すため、同じ課題を担当する学生同士が学ぶ段階で、一人ひとりにレポートを課したこと。もう一つは、教師役の学生が担当している技術課題(看護技術)の演習前に、教師が習得度を評価します。評価に合格してはじめて、小グループ内でほかのメンバーに教えられます。私は前任校で、緒方先生とともに、このようにアレンジした、「緒方式ジグソー学習法」を実践しました。

3. 「緒方式ジグソー学習法」の六つのプロセス

「緒方式ジグソー学習法」を取り入れた「基礎看護技術演習」の授業の様子をご紹介します。4人が1グループとなり、「皮下注射」「筋肉内注射」「静脈注射」「点滴静脈内注射」の技術課題から一つずつ選んで学習。教師役として、それぞれが担当した技術課題をデモンストレーションし、その技術について「意義と目的」「必要物品」「手順と留意点」「なぜそうするのかという根拠」を説明します。

課題の学習には、次の六つのプロセスがあります。

一つめのプロセスでは、同じ技術課題を担当する他グループの学生と一緒に、教師によるデモンストレーションを見学します。デモンストレーションは技術の手順がイメージできるように実施しますが、教師はあえて、手順や根拠は詳しく説明しません。根拠については、学生自身に学習させようというねらいです。

二つめのプロセスでは、担当の技術課題についてレポートを作成します。「意義と目的」「必要物品」「手順と留意点」「なぜそうするのかという根拠」など、教師役としてグループ内の他のメンバーに説明する事項についてまとめ、技術課題をデモンストレーションする際にどのように説明するか、そのセリフなどもレポートに書きます。

三つめのプロセスでは、同じ技術課題を担当する学生同士が、時間割の空き時間や課外時間に実習室に集まり、技術課題を練習します。ここまでのプロセスで学習した知識を実際に使ってみるわけです。学生は看護師役と患者役を交互に務めあって練習を重ねますが、患者役の時は、看護師役の学生の技術や説明の仕方に触れられ、看護師役の時は、自分の技術に対して患者役の学生から「もっとこうの方がいい」などと、率直なアドバイスを受けられます。学生はお互いに意見を交換することで、技術に対する理解だけでなく、看護観をも深められると思います。そして、練習によって得た気づきは、プロセス2で作成したレポートに書き足していきます。

四つめのプロセスでは、教師が教師役の学生の説明の内容と技術の実際を、個別に評価します。グループ内でデモンストレーションを行うためには、教師による個別評価に合格する必要があります。評価が不合格だった学生は教師の個別指導の下、改めて練習し、合格するまで評価を受けます。こうした個別評価と個別指導によって、教師は学生の知識と技術の習得度をしっかり把握できますし、学習意欲や看護に対する考え方などを見取ることができると考えています。

五つめのプロセスでは、教師役の学生は、グループ内でのデモンストレーションに必要な物品を演習前日に準備します。身につけた知識と技術を他者に教える者としての、自覚と責任感を育

もうというねらいです。デモンストレーション前日には、実習室にある22台のベッドが写真のように整えられることになります。

六つめのプロセスは、グループ内でのデモンストレーション本番です。授業の冒頭15分間に教師が学習目標やポイントを確認してから、デモンストレーションのスタートを指示します。グループの4人のうち一人が教師役となり、自分が担当した技術課題について、他の3人に教えるのです。教師役の学生は、3人の反応を見ながら、ゆっくり説明したり、何回か実施したりして見せる、というように、全員が理解できるよう気を配ります。質問されれば、その場で答えたりディスカッションしたりします。

ジグソー学習法の考案者、エリオット・アロンソンの著書『ジグソー学級』を翻訳された松山安雄先生が、「基礎看護技術演習」の授業を参観にいらっしゃったことがあります。松山先生は、「ジグソー学習法が看護教育に使われていることを知ったら、アロンソンは喜ぶと思いますよ」と言ってくれました。

このような学生主体の学習活動を、教師は巡回しながら必要に応じて指導します。

4. 看護職者に求められる資質や技術力を身につけられる教育方法

ジグソー学習法を取り入れたことにより、看護技術の演習は大きく変わりました。少人数のグループごとにデモンストレーションをするため、見学している学生は教師役の説明をよく聞き取れるようになりましたし、技術をじっくり観察できるようにもなり、「小グループによる効果的な学習環境」になりました。また、どの学生も教師役を務めるため、グループ内の他の学生に対する「学習の責任感」を強めています。しっかり学んで教えなければならないという、「学習意欲」を持つようになり、技術を練習するための時間も積極的につくろうとする姿が見られます。

同じ技術課題に取り組む学生同士で練習し合うプロセスは、「コミュニケーション能力の向上」にもつながりました。学生は、自分から声をかけ、練習仲間をつくっています。相互に看護師役と患者役を務めることで、言葉の選び方や声の大きさ、話す速度などを工夫し、他者にわかりやすく説明することもできるようになっています。また、「実習室の学習資源の活用」も、以前よりずっと高まりました。

つまり、どの学生も、責任感や自主性、コミュニケーション能力、表現力といった、看護職者として求められる資質や力を身につけられるようになったのです。

5. 最後に

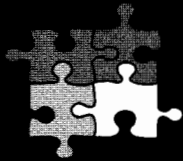
ジグソー学習法のような協同教育を行うためには、教師が学生の能力と可能性を信じ、教師同士も協力し合う必要があります。時間や手間がかかることもありますが、それだけの教育効果はあると思います。ジグソー学習法を用いた看護技術教育では、教師の期待を超えた学生の成長を目の当たりにすることもしばしばです。

私たちは、この教育方法を初年次の前期から実践することで、学生が友だちや教師と良い関係をつくり、看護に対して関心を深め、やりがいを持つきっかけになると確信しています。

なお、緒方先生は、今後はeラーニングとジグソー学習法をミックスした技術教育に挑戦したいとおっしゃっていました。

ジグソー学習法を用いた 基礎看護技術の教育方法

緒方 巧 上野範子



1

一般的な看護技術演習

- 1.事前学習
演習の技術項目の手順・留意点などをレポートにまとめる。
- 2.教師の技術デモンストレーション見学
学生80名 / 教師4名の場合
一人の教師のデモを20名の学生が見学
- 3.学生は各グループに戻って看護師役・患者役・評価役をロールプレイして技術を経験
- 4.教師はデモ後、担当のグループを巡回指導

2

検討課題

学生

教師

教師のデモ時

- ・技術が見えにくい
- ・説明が聞こえにくい
- ・スピードについていけない
- ・質問をしにくい

- ・事前学習とデモの見学だけでは、グループでの演習がスムーズに進みにくい

- ・個別指導が行き届かない
- ・できない学生に関わりが偏りやすい
- ・技術の習得度を高めにくい
- ・習得への主体性を引き出しにくい

習得への主体性に個人差・受け身・練習不足

3

ねがい

学生の

- ・技術習得度を高めたい
- ・技術習得への主体性を引き出したい
- ・クラスの仲間と学びあってほしい
- ・演習室の学習資源を活用して欲しい

4

ジグソー学習法

エリオット・アロンソン(1978)

クラス 4人～6人の小グループ編成

教師が4～6項目の

学習
課題

を提示する

小グループ内で
話し合い

担当する
学習課題を分担

5

ジグソー学習法

エリオット・アロンソン(1978)

同じ学習課題を担当した
メンバー同士で学習

学習を終えたら
各自の小グループに戻って
教師役として学習課題を
互いに教えあう



6

緒方式ジグソー学習法

基礎看護技術の習得度を高めるためにジグソー学習法に以下の方法を追加

- 学習課題について
個人のレポート作成と自主的な技術練習
- 小グループ内で教師役をする前に
教師の評価に合格する(個別評価・個別指導)

7

(例) 注射の看護技術

小グループ内で学習課題の分担



学生A
皮下注射

学生C
静脈内注射

学生B
筋肉内注射

学生D
点滴静脈内注射



8

学習課題

担当した学習課題(技術項目)を教師役(看護師役)として小グループのメンバーにデモンストレーションする

担当した基礎看護技術項目の

- ・意義、目的を説明する
- ・必要物品を説明する
- ・手順の方法と留意点を説明する
- ・実際に実施する
- ・何故そうするのか、という根拠を説明する

9

教師役学生の学習プロセス①

担当した技術項目の
教員デモンストレーションを見学(課外に)



担当した技術項目の
イメージ形成と理解
ができる

足浴の技術場面

10

教師役学生の学習プロセス②

デモンストレーションの準備
担当した技術項目のレポート作成

- ・意義、目的
- ・必要物品
- ・技術の手順と実施上の留意点
- ・何故そうするのか、という根拠
- ・説明方法(台詞) など

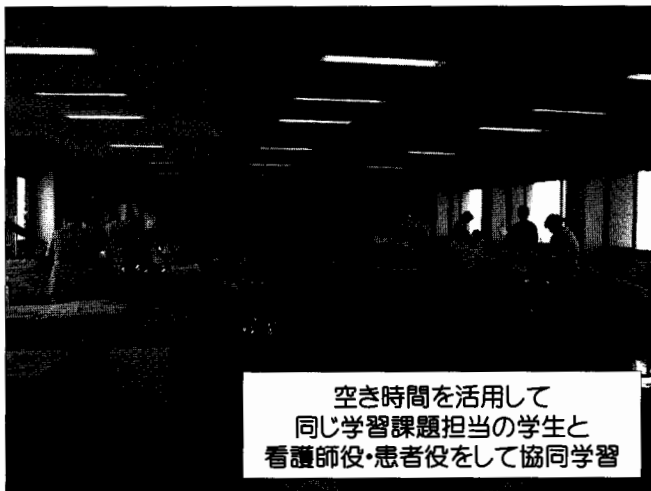
11

教師役学生の学習プロセス③

時間割の空き・課外時間に
担当した技術項目の練習
(個人・協同学習)

知識と技術の統合
(作成したレポートと実際の技術)

12



空き時間を活用して
同じ学習課題担当の学生と
看護師役・患者役をして協同学習

13



練習風景

14

同じ学習課題担当の学生と練習することで
看護師役・患者役をしながら学ぶ

発見

- 看護師役の子の
看護技術
説明技術
看護観 人間的な関わり
- 患者の気持ち・ニーズ

練習で、より良い技術を追求し、得た学びを
自分のレポートに追加していく

15

教師役学生の学習プロセス④

演習前日までに
教師が教師役学生の技術評価

合格

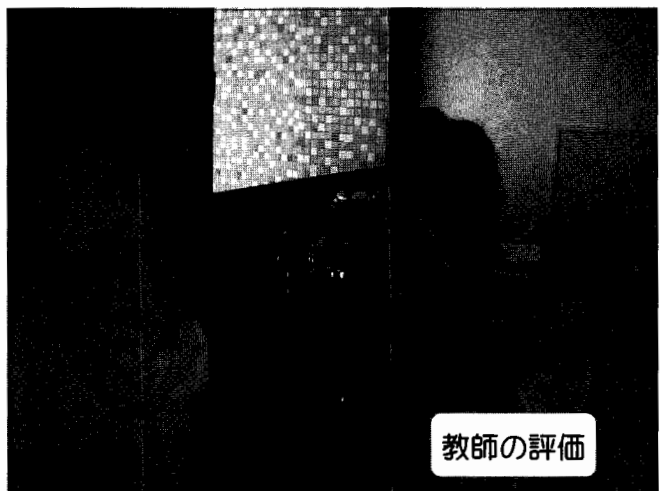
個別評価・指導は

- ・知識、技術習得度の把握
- ・学習意欲、看護観、人間観など
学生の個性を知る機会
- ・学生と教員の間関係形成の機会

16



17



18

教師役学生の学習プロセス⑤

演習前日に教師役学生が
担当した技術項目の必要物品を
準備しておく。
(教師役としての自覚・責任感)

19



20

教師役学生の学習プロセス⑥

演習当日

小グループ内のメンバーに
教師役として担当技術を
デモンストレーションする。

21



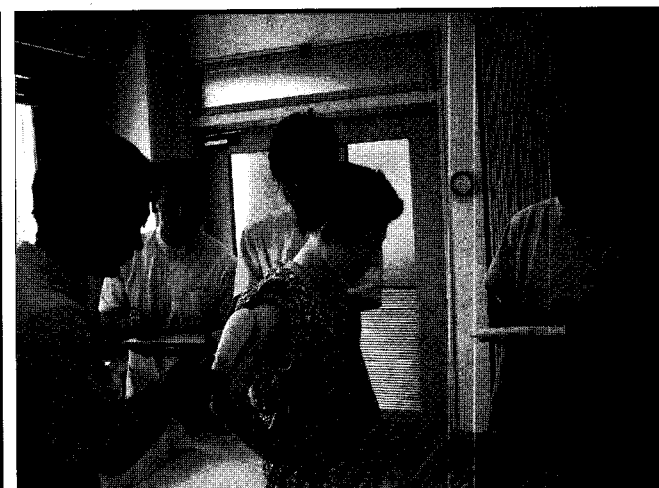
22

担当課題のデモンストレーション

看護技術を説明しながら実施していく

- ・適度なスピードで説明
- ・適度な声の大きさを説明
- ・メンバーの反応を捉えて実施
- ・質問に応じてディスカッション

23



24

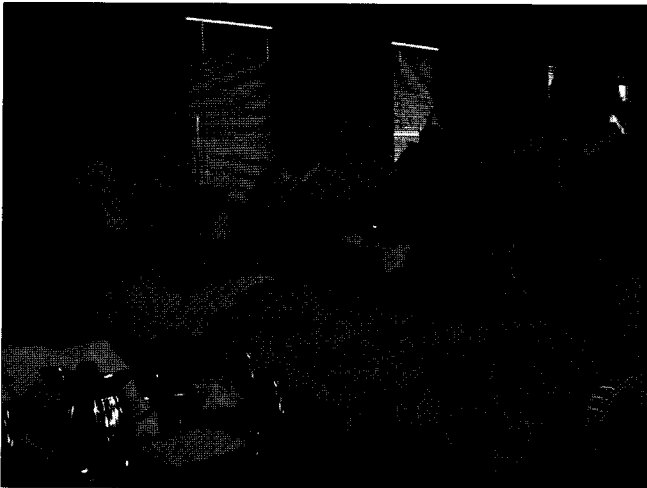


25



エリオット・アロンソン
「ジグソー学習法」記
松山安雄先生が見学

26



27



28



29

教員主導の技術デモからジグソー学習法へ
(学生による技術デモ)
改善した点

- ・ 看護技術が見えやすい
- ・ 説明が聞こえやすい
- ・ 質問しやすい・討論できる
- ・ 学生のペースで実施できる
- ・ 個別指導が行き届く
- ・ 担当した技術項目の習得度が高まる

30

ジグソー学習法による技術教育成果

- ・知識・技術の習得
- ・学習意欲の向上
- ・責任感が身につく
- ・学習への主体性
- ・コミュニケーションカ・表現力の向上
- ・人間関係の形成力
- ・小グループの学習効果
- ・実習室の資源活用

看護職者
としての資質

31

皆様
ご清聴いただき
ありがとうございました。

32